

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「ともに学び、ともに育つ」多様な教育実践校として、自律した生活習慣を確立し、主体的に課題解決に取り組む力を備えた、やさしくたくましい人材を育成する。

2 中期的目標

1	ステップスクールの教育内容の充実 PDCA サイクルで組織的に取り組む。 ア 国社数理英の基礎科目及び地域連携を活用した総合的な探究の時間について、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。 ※ 学校教育自己診断において、「モジュール授業に関する項目」の肯定的な意見を令和8年度には90%とする。(R3 83.5% R4 86.5% R5 81.9%) ※ 「地域連携を活用した体験的な取組に関する項目」の肯定的な意見を令和8年度には85%以上とする。(新規) イ 4つの系列科目の内容の充実 ※ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を令和8年度には85%以上とする。(R3 72.3% R4 79.9% R5 80.6%)
2	課題を発見し、解決する力やコミュニケーション能力など、社会で生き抜く力を育む。 (1) 学習活動の充実 ア 地域連携を活用した「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。 ※ グループ学習、少人数展開授業、体験活動、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、令和8年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.50以上にする。<R6 3.45、R7 3.50、R8 3.55> (R3 3.29 R4 3.33 R5 3.35) また、授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均値3.3以上にする。(R3 3.19 3.21 R4 3.22 3.24 R5 3.19 3.25) イ 4つの系列（マリンアドベンチャー、アクティブIT、ソーシャルケア、クロスカルチャー）の構築と内容の充実を図る。 ウ 地域連携を活用した体験的な取り組みを開発する。 (2) 特別活動の充実 体育祭、文化祭、地域と連携する山海人プロジェクト等の全員参加型行事、地域活動等の希望参加型行事を実施する。 ※令和8年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭、文化祭の事後アンケートにおける肯定意見75%以上を維持する。(R3 75%、R4 82.1%、R5 83.5%) また、国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりにおける肯定意見80%以上を維持する。 (3) キャリア教育の充実 ア 個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」生徒指導の実践 ※学校教育自己診断における「高校にはいろいろななきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を70%以上にする。(R3 62.5% R4 66.5% R5 70.1%) イ 人権教育の推進 ※学校教育自己診断における「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」を75%にする。(R3 68.6% R4 73.6% R5 74.6%) ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援 ※学校教育自己診断における「地域連携を活用した体験的な取組は将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う」の肯定的意見について80%以上をめざす。 エ 望ましい職業観の育成と進路実現 ※系統的なキャリア教育により、自尊感情を育成し卒業時における進路未決定者を3人以内にする。(R3 15人 R4 8人 R5 4人) オ 国際感覚の育成 ※海外研修の実施等、国際交流の推進を図る。 (4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実 ア 高校生活支援カードの活用促進のため、カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無にかかわらず困り感のある生徒の支援を行う。(高校生活支援カードの提出100%を維持) イ 授業のユニバーサルデザイン化により基礎的環境整備を図る。 ※令和8年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.40以上にする。(R3 3.29 R4 3.33 R5 3.35) ウ LHR や総合的な探究の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。 ※令和8年度において、学校教育自己診断の「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」を78%にする。(R3 68.6% R4 73.6% R5 74.6%) エ 支援教育体制の整備 多様な教育実践校として、より生徒の教育的ニーズに応じた既成概念にとらわれないユニークなカリキュラムを考える。 ※多様な学び方に対応するための環境整備や集団づくり、体験学習を通して、生徒の自尊感情を高め、中途退学や不登校を防止する。 (5) 通級指導教室の充実 ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。
3	人材の育成と管理 ア 教員全体の資質向上のため、授業改善、組織運営を中心に、支援教育、教育相談、人権問題、社会人教育等、教職員からの要望に応じたテーマで講演会や研修を実施する。※ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間20回実施する。 イ 働き方改革の一環として、会議資料のペーパーレス化を進め、会議等の効率化を図る。 ※月当たり時間外勤務45時間以上の教職員を5人以内にする。
4	地域連携と広報活動 ア 地域の小中学校への、点字等の本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。 イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。※参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が5団体以上参加する。 ウ 学校の取組みを発信する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 ステップ スクールの 教育内容の 充実	PDCA サイクルで組織的に取り組む ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイム・地域連携を活用した体験的な取組について、担当者を中心に定期的に振返りを行う イ 系列科目の内容の充実	ア 担当者を中心に、振り返りの会議を定期的開催する また、次年度以降の選択科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う イ 定期考査ごとに、生徒の振り返りを行う	ア 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」「地域連携を活用した体験的な取組に関する項目」の肯定的な意見の割合をそれぞれ 80%、70%、80%以上を維持するとともに、88%、83%、85%に近づける[81.9%・78.4%・ー] イ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を 80%以上とする[80.6%]	
2 (1) 学習活動の 充実	ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する イ 4つのコースの内容を生徒にとって、より魅力的なものにする ウ 特色ある学校設定の授業を実施する	ア ①学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める ②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く。 ③メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける ④考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける ⑤具体的にほめる 以上の5項目を教員が目標とする 放課後等に生徒が自主的に学習できる環境整備や取組みを行う イ 各コースで従前と異なる取組みを検討する ウ 地域資源や環境を活用した魅力的な体験型授業を実施する	ア 生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中 3.30 以上を維持する[3.36] また、授業アンケート「生徒意識1」「生徒意識2」の平均が 3.2 以上を維持する[3.19 3.25] イ 各コースで新しい取組みを1つ以上行う [アクティブ2、マリン2、ソーシャル2、クロスカルチャー3] ウ すべての教科で新たな取組みを1つ以上の実施 [数学のみ]	
2 (2) 特別活動の 充実	体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施	様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する 山海人プロジェクトの内容について、雨天時のプログラム等を検討する 広報誌等に活動を掲載してもらうなど、地域等への発信について検討する	・全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭、文化祭の事後のアンケートにおける肯定意見 70%以上を維持する [92.7%、ー、83.7%] ・希望者参加型行事の事後アンケート等振返りににおける肯定意見を 80%以上維持する [100%] ・広報誌などへの掲載回数 10 回以上 [8回]	
2 (3) キャリア教育の 充実	ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の実践 イ 人権教育の推進 ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援 エ 望ましい職業観の育成と進路実現 オ 国際感覚の育成	ア 多様な生徒の状況に応じた生徒支援について学校運営協議会で聞く イ LHR や総合的な探究の時間に、人権について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワーク等を行う ウ 職業生活を営むために必要となるソーシャルスキル等の習得をめざす授業を実施し、課題のある生徒を支援する。 エ 1年次から進路実現を目標としたHR を計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める。 オ 海外異文化との交流を実施し、交流内容の充実を図る	ア 生徒のマナーについての学校運営協議会の意見を校内外での生徒指導に反映させ、通学路等での指導を継続。自尊感情の観点を取り入れ、生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見 70%以上を維持する[70.1%] イ 生徒向け学校教育自己診断における「障がいのある人や外国の人と交流することで、ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」を 75%以上にする[74.6%] ウ・エ 卒業時における進路未決定者を3人以下にする [4名] オ 年に6回以上海外異文化との交流を行う [4回]	

府立岬高等学校

2 (4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実	ア 高校生活支援カードの活用 イ 授業のユニバーサルデザイン化 ウ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する エ 支援教育体制の充実	ア 入学時に新入生全員に作成し、生徒の状況を年度当初に共有 イ 支援教育の観点により、2（1）の授業づくりに取り組む ウ LHR や総合的な探究の時間に、人権について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワーク等を行う（再掲） エ 多様な学び方に対応するための環境整備等の取組みにより、生徒の自尊感情を高めることで、中途退学や不登校を防止する	ア 高校生活支援カードを活用し、必要な生徒に個別の教育支援計画を作成する。[作成率 100%] 個別の教育支援計画作成ノウハウを学年・教科の OJT により進める。 イ・ウ 2（1）イ・ウと同じ エ 生徒が自分の得意な学び方が「わかる」機会として、地域連携を活用した活動等を年に 25 回以上開催し、中途転退学率を 10%以下にする。[18 回、16.1%]	
2 (5) 通級指導教室の充実	ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る	ア 入級生徒に対して、自尊感情を評価するためのアンケートを実施 自立活動において、先駆的な取り組みを行う 通級指導室の環境整備を行う	ア 学期等の区切り毎にアンケートを実施し自尊感情の変化を把握する 地域連携による先駆的な取り組みを行う [20 回以上実施] 特性に応じた環境整備を行う [エアコン設置]	
3 人材の育成と管理	ア 教員研修の充実 イ 働き方改革の推進	ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善、組織運営を中心とする研修を行う イ 会議資料のペーパーレス化、事前配信により業務の効率化を図る	ア ミドルリーダーや外部講師等による教員研修を年間 20 回以上実施する [20 回] イ 月当たり時間外勤務 45 時間以上の教職員を 6 人以内にする [7.7 人]	
4 地域連携と広報活動	ア 地域の小学校への、点字等本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどアウトプットの機会を増やす。 イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する ウ 学校の取組みを発信していく	ア 生徒が主体的に地域の学校や施設に出向き、学んだことを伝える。 イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する ウ 特色ある取組みの広報を行う	ア 出前授業等の機会を増やす [3 件実施] イ 参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が 10 団体以上参加する [延べ 8 団体] ウ 従前の学校説明会に加え、クラブ体験会を行い、参加者の事後アンケートの肯定的意見の割合 95%以上を維持する。[97%]	